

食品安全情報（微生物） No.16 / 2016（2016.08.03）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

【[米国疾病予防管理センター \(US CDC\)](#)】

1. 小麦粉に関連して複数州にわたり発生している志賀毒素産生性大腸菌感染アウトブレイク（2016年7月25日付更新情報）
2. 小規模飼育 (Backyard Flock) の生きた家禽類に関連して複数州にわたり発生している8件のサルモネラ感染アウトブレイク（2016年7月19日付更新情報）

【[ハワイ州保健局 \(Hawaii State Department of Health\)](#)】

1. A型肝炎アウトブレイク（2016年）
2. Taco Bell の店舗（ハワイ州オアフ島 Waipio）の従業員の A 型肝炎ウイルス感染を確認

【[欧州委員会健康・消費者保護総局 \(EC DG-SANCO\)](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF: Rapid Alert System for Food and Feed)

【[欧州食品安全機関 \(EFSA\)](#)】

1. 欧州統一の食品分類・記述システム (FoodEx2) の 2015 年次改訂

【[イングランド公衆衛生局 \(UK PHE\)](#)】

1. 大腸菌 O157 アウトブレイクの調査（2016年7月14、21日付更新情報）

【[英国食品基準庁 \(UK FSA\)](#)】

1. 大腸菌 O157 アウトブレイクの調査を継続中

【[オランダ国立公衆衛生環境研究所 \(RIVM\)](#)】

1. 最後の手段として用いられる抗生物質への細菌の耐性率がわずかに上昇

【[ProMed mail](#)】

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報
-

【各国政府機関等】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<http://www.cdc.gov/>

1. 小麦粉に関連して複数州にわたり発生している志賀毒素産生性大腸菌感染アウトブレイク (2016年7月25日付更新情報)

Multistate Outbreak of Shiga toxin-producing *Escherichia coli* Infections Linked to Flour

July 25, 2016

<http://www.cdc.gov/ecoli/2016/o121-06-16/index.html>

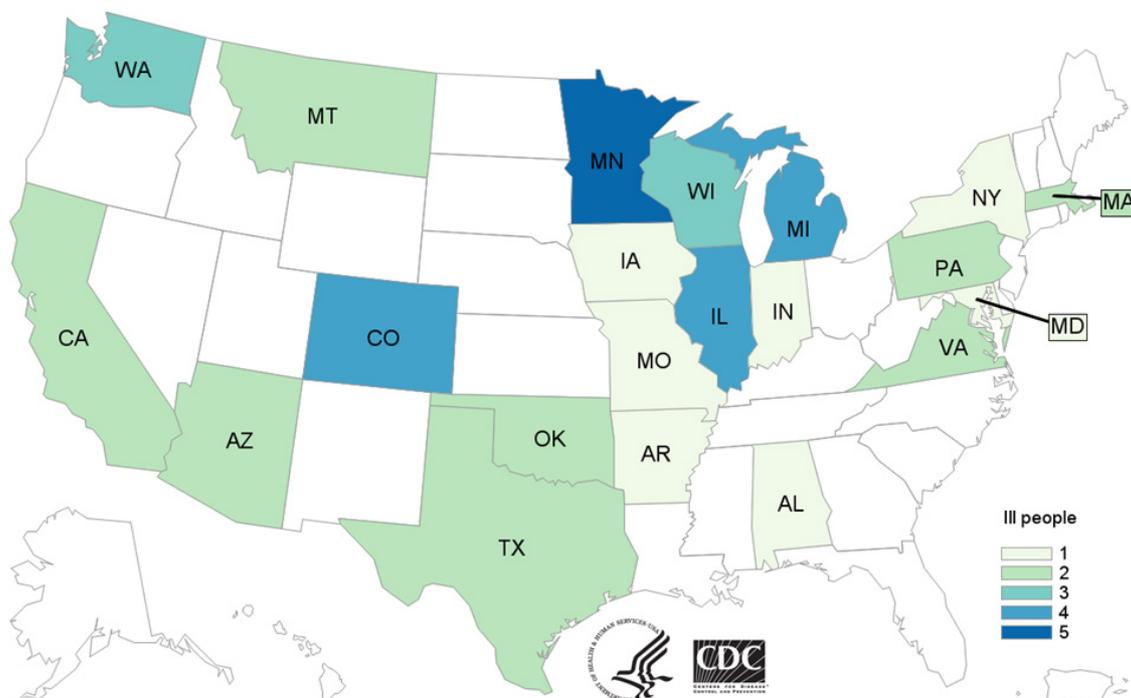
患者情報の更新

2016年7月1日付の更新情報以降、2州から新たに患者4人が報告された。これまで調査対象は志賀毒素産生性大腸菌 (STEC) O121 感染であったが、現在は別の血清型 STEC O26 も調査対象に追加されている。

本アウトブレイクでは、2016年7月25日までに、STEC O121 アウトブレイク株が45人、STEC O26 アウトブレイク株が1人の計46人の感染患者が21州から報告されている(図)。

患者の発症日は2015年12月21日～2016年6月25日である。患者の年齢範囲は1～95歳、年齢中央値は18歳で、80%が女性である。13人が入院し、1人が溶血性尿毒症症候群 (HUS) を発症したが、死亡者は報告されていない。

図：志賀毒素産生性大腸菌（STEC）O121 および O26 アウトブレイク株感染患者数（2016年7月25日までに報告された居住州別患者数、n=46）



調査の更新情報

2016年7月、General Mills社および米国食品医薬品局（US FDA）が実施した検査で、同社製小麦粉の検体から STEC O26 が分離された。全ゲノムシーケンシング（WGS）解析の結果、この株と、患者1人に由来する分離株との間に高度な遺伝学的関連が認められた。検査した小麦粉は、同社が以前に発表した回収対象に含まれていなかった。

2016年7月25日、同社は回収対象に別の製造日の製品を追加した。米国疾病予防管理センター（US CDC）は、消費者、レストランおよび小売店に対し、回収対象の小麦粉の使用、提供、販売を行わないよう注意を呼びかけている。

（食品安全情報（微生物）No.14/2016 (2016.07.06) US CDC、No.12/2016 (2016.06.08) US FDA、US CDC 記事参照）

2. 小規模飼育（Backyard Flock）の生きた家禽類に関連して複数州にわたり発生している8件のサルモネラ感染アウトブレイク（2016年7月19日付更新情報）

Eight Multistate Outbreaks of Human *Salmonella* Infections Linked to Live Poultry in Backyard Flocks

July 19, 2016

行ったところ、493人中434人(88%)が発症前1週間に生きた家禽類(ヒヨコ、ニワトリ、アヒル、アヒルのヒナ)と接触したと報告した。

患者は、生きた家禽類のヒナの購入先として、飼料販売店、インターネットサイト、孵化業者、友人などを挙げた。また、生きた家禽類の購入目的は、卵を産ませる、農業について学ぶ、趣味、楽しむため、ペットとして飼育、イースターの贈り物にする、などであった。患者が生きた家禽類と接触した場所としては、自宅、他人の家、職場、学校などが挙げられた。

複数の州の公衆衛生当局は、患者の家庭で生きた家禽類およびその飼育環境から検体を採取し、検査によりアウトブレイク株4株を分離した。

複数州にわたり発生している8件のアウトブレイクの調査の更新情報

○アウトブレイク1: *Salmonella* Enteritidis

2016年6月2日付の初発情報以降、19州から計73人の患者が報告され、本アウトブレイクの患者数は7月14日までに23州から報告された計205人となっている。患者数の州別の内訳は、カリフォルニア(6人)、コロラド(1)、コネティカット(9)、フロリダ(9)、ケンタッキー(17)、メイン(1)、メリーランド(2)、ミシガン(32)、ミネソタ(2)、ミズーリ(6)、ノースカロライナ(4)、ニューハンプシャー(1)、ニューヨーク(35)、オハイオ(30)、オクラホマ(1)、ペンシルバニア(13)、ロードアイランド(3)、サウスカロライナ(1)、バージニア(5)、バーモント(15)、ワシントン(3)、ウィスコンシン(2)、ウエストバージニア(7)である。

情報が得られた患者の発症日は2016年1月4日~6月25日である。患者の年齢範囲は1歳未満~87歳、年齢中央値は18歳で、54%が女性である。情報が得られた患者193人のうち41人(21%)が入院した。患者1人の死亡が報告されているが、サルモネラ感染が死亡の原因とは考えられていない。

患者に対し、発症前1週間の動物との接触歴に関する聞き取り調査が行われ、205人のうち203人(99%)が生きた家禽類との接触を報告した。

○アウトブレイク2: *Salmonella* Muenster

2016年6月2日付の初発情報以降、4州から計5人の患者が報告され、本アウトブレイクの患者数は7月14日までに8州から報告された計24人となっている。患者数の州別の内訳は、インディアナ(2人)、ケンタッキー(1)、ミシガン(5)、ミズーリ(1)、ニューヨーク(1)、オハイオ(7)、ペンシルバニア(2)、テネシー(5)である。

情報が得られた患者の発症日は2016年3月11日~5月29日である。患者の年齢範囲は1歳未満~73歳、年齢中央値は1歳未満で、56%が男性である。情報が得られた患者20人のうち8人(40%)が入院したが、死亡者は報告されていない。

患者に対し、発症前1週間の動物との接触歴に関する聞き取り調査が行われ、20人中14

人（70%）が生きた家禽類との接触を報告した。

○アウトブレイク 3 : *Salmonella* Hadar

2016年6月2日付の初発情報以降、15州から計24人の患者が報告され、本アウトブレイクの患者数は7月14日までに22州から報告された計66人となっている。患者数の州別の内訳は、アラバマ（3人）、アラスカ（1）、アーカンソー（3）、コロラド（3）、ジョージア（1）、アイオワ（1）、マサチューセッツ（1）、ミネソタ（3）、ミシシッピ（1）、モンタナ（6）、ニュージャージー（1）、ニューヨーク（3）、ノースカロライナ（10）、ノースダコタ（2）、オレゴン（1）、ペンシルバニア（4）、サウスカロライナ（6）、サウスダコタ（3）、テネシー（1）、テキサス（1）、バージニア（7）、ウエストバージニア（4）である。

情報が得られた患者の発症日は2016年3月27日～6月17日である。患者の年齢範囲は1歳未満～77歳、年齢中央値は30歳で、54%が女性である。情報が得られた患者55人のうち20人（36%）が入院したが、死亡者は報告されていない。

患者に対し、発症前1週間の動物との接触歴に関する聞き取り調査が行われ、51人中44人（86%）が生きた家禽類との接触を報告した。

○アウトブレイク 4 : *Salmonella* Indiana

2016年6月2日付の初発情報以降、18州から計40人の患者が報告され、本アウトブレイクの患者数は7月14日までに20州から報告された計86人となっている。患者数の州別の内訳は、アラバマ（10人）、アラスカ（1）、アーカンソー（3）、カリフォルニア（3）、コロラド（1）、ジョージア（6）、アイダホ（2）、ミネソタ（1）、ミシシッピ（4）、モンタナ（7）、ノースカロライナ（15）、ノースダコタ（1）、ニューハンプシャー（1）、オハイオ（1）、オレゴン（1）、サウスカロライナ（3）、サウスダコタ（3）、バージニア（9）、ワシントン（1）、ウエストバージニア（13）である。

情報が得られた患者の発症日は2016年3月26日～6月11日である。患者の年齢範囲は1歳未満～87歳、年齢中央値は7歳で、60%が男性である。情報が得られた患者68人のうち19人（28%）が入院したが、死亡者は報告されていない。

患者に対し、発症前1週間の動物との接触歴に関する聞き取り調査が行われ、63人中51人（81%）が生きた家禽類との接触を報告した。

○アウトブレイク 5 : *Salmonella* Mbandaka

2016年6月2日付の初発情報以降、13州から計21人の患者が報告され、本アウトブレイクの患者数は7月14日までに17州から報告された計33人となっている。患者数の州別の内訳は、アラバマ（7人）、アリゾナ（1）、アーカンソー（1）、コロラド（2）、イリノイ（1）、インディアナ（1）、アイオワ（1）、カンザス（1）、ケンタッキー（2）、ミシガン（3）、ノースカロライナ（2）、オハイオ（5）、オクラホマ（1）、テネシー（1）、テキサス（1）、バーモント（1）、バージニア（2）である。

情報が得られた患者の発症日は2016年3月13日～6月10日である。患者の年齢範囲は1歳未満～92歳、年齢中央値は5歳で、62%が女性である。情報が得られた患者29人のうち9人(31%)が入院したが、死亡者は報告されていない。

患者に対し、発症前1週間の動物との接触歴に関する聞き取り調査が行われ、30人中25人(83%)が生きた家禽類との接触を報告した。

○アウトブレイク6：*Salmonella Infantis*

2016年6月2日付の初発情報以降、28州から計73人の患者が報告され、本アウトブレイクの患者数は7月14日までに30州から報告された計108人となっている。患者数の州別の内訳は、アリゾナ(1人)、カリフォルニア(1)、コネティカット(1)、ジョージア(5)、イリノイ(8)、インディアナ(5)、アイオワ(3)、ケンタッキー(5)、メリーランド(2)、マサチューセッツ(3)、ミネソタ(11)、ミシシッピ(3)、ミズーリ(4)、モンタナ(1)、ネブラスカ(1)、ネバダ(1)、ニューハンプシャー(2)、ニュージャージー(1)、ニューヨーク(7)、ノースカロライナ(5)、ノースダコタ(1)、オハイオ(3)、ペンシルバニア(6)、サウスカロライナ(2)、サウスダコタ(3)、テネシー(1)、テキサス(1)、バージニア(9)、ウエストバージニア(2)、ウィスコンシン(10)である。

情報が得られた患者の発症日は2016年2月19日～6月20日である。患者の年齢範囲は1歳未満～93歳、年齢中央値は24歳で、51%が女性である。情報が得られた患者74人のうち26人(35%)が入院したが、死亡者は報告されていない。

患者に対し、発症前1週間の動物との接触歴に関する聞き取り調査が行われ、71人中55人(77%)が生きた家禽類との接触を報告した。

○アウトブレイク7：*Salmonella Braenderup*

2016年6月2日付の初発情報以降、13州から計40人の患者が報告され、本アウトブレイクの患者数は7月14日までに19州から報告された計78人となっている。患者数の州別の内訳は、アーカンソー(1人)、ジョージア(1)、イリノイ(1)、インディアナ(4)、ケンタッキー(9)、マサチューセッツ(6)、メリーランド(1)、メイン(1)、ミシガン(4)、ミズーリ(6)、ニューハンプシャー(2)、ニュージャージー(1)、ニューヨーク(20)、オハイオ(10)、ペンシルバニア(1)、テキサス(1)、ユタ(1)、ワシントン(1)、ウィスコンシン(7)である。

情報が得られた患者の発症日は2016年1月27日～6月15日である。患者の年齢範囲は1歳未満～84歳、年齢中央値は31歳で、58%が女性である。情報が得られた患者47人のうち12人(26%)が入院したが、死亡者は報告されていない。

患者に対し、発症前1週間の動物との接触歴に関する聞き取り調査が行われ、45人中35人(77%)が生きた家禽類との接触を報告した。

○アウトブレイク8：*Salmonella Infantis* (7月19日付初発情報)

7件のアウトブレイクに関する2016年6月2日付の初発情報以降、8件目となるこの *S. Infantis* 感染アウトブレイクが新たに特定され、調査対象に追加された。

7月14日までに6州から計11人の患者が報告されており、患者数の州別の内訳は、カリフォルニア(1人)、アイオワ(1)、カンザス(3)、ケンタッキー(1)、ネブラスカ(4)、ニューヨーク(1)である。

情報が得られた患者の発症日は2016年4月6日～5月30日である。患者の年齢範囲は5歳～59歳、年齢中央値は48歳で、64%が女性である。情報が得られた患者10人のうち3人(30%)が入院したが、死亡者は報告されていない。

患者に対し、発症前1週間の動物との接触歴に関する聞き取り調査が行われ、11人中9人(82%)が生きた家禽類との接触を報告した。

(食品安全情報(微生物) No.13 / 2016 (2016.06.22) US CDC 記事参照)

● ハワイ州保健局 (Hawaii State Department of Health)

<http://health.hawaii.gov/>

1. **A型肝炎アウトブレイク (2016年)**

Hepatitis A outbreak 2016

July 20, 2016

<http://health.hawaii.gov/docd/hepatitis-a-outbreak-2016/>

ハワイ州保健局 (HDOH) は、オアフ島のA型肝炎患者クラスターの調査を行っており、感染源を特定するために患者に対する聞き取り調査を実施中である。

2016年7月12日付けの情報以降、HDOHは新たに22人のA型肝炎患者を特定した。2016年7月20日までのA型肝炎確定患者数は74人である。発症日は2016年6月12日～7月14日である。患者は全員が成人で、26人が入院を必要とした。

患者は、2人を除き全員がオアフ島の住民である。この2人は、曝露期間にはオアフ島に在住していたが、現在はそれぞれハワイ島とマウイ島に居住している。

(食品安全情報(微生物) No.15 / 2016 (2016.07.20)、No.14 / 2016 (2016.07.06) HDOH 記事参照)

2. **Taco Bellの店舗 (ハワイ州オアフ島 Waipio) の従業員のA型肝炎ウイルス感染を確認**

Hepatitis A infection in food service employee: Taco Bell Waipio

July 15, 2016

CURRENT YEAR 2016 NEWS RELEASES

<http://health.hawaii.gov/news/current-year-news-releases/>

<https://health.hawaii.gov/news/files/2013/05/16-045-Hep-A-in-Food-Service-Employee.pdf>

ハワイ州保健局（HDOH）は、食品提供施設の従業員の A 型肝炎ウイルス感染を新たに 1 人確認した。この従業員は Taco Bell レストランのワイピオ (Waipio) の店舗 (94-790 Ukee Street) に勤務していた。HDOH は、2016 年 6 月 16 日～7 月 11 日（具体的には、6 月 16、17、20、21、24、25、28、29、30 日、および 7 月 1、3、4、6、7、11 日）に同店舗の食品・飲料を喫食・喫飲した人に対し、A 型肝炎ウイルスに曝露した可能性があるとして注意を呼びかけている。A 型肝炎ウイルス曝露後 2 週間以内にワクチンまたは免疫グロブリンを投与することで発症をある程度予防できるため、ワクチン接種をまだ受けていない人は投与について医療機関に相談すべきである。

州の疫学責任者によると、Baskin-Robbins の Waikele センター店も Taco Bell の Waipio の店舗も、A 型肝炎アウトブレイクの感染源として特定されたわけではないことに注意する必要がある。これらの店舗は、いずれも患者の勤務先であるというだけである。これら 2 店舗の利用客の A 型肝炎ウイルス感染の可能性は極めて低いが、HDOH は患者のさらなる発生を防ぐため、住民が医療従事者の助言や支援を求められるよう情報提供している。

患者数の増加に伴い、他の食品提供施設も影響を受ける可能性がある。食品提供施設の従業員をはじめ A 型肝炎の症状を呈した人は、外出せず、医師に連絡すべきである。また、すべての食品提供施設従業員は、手指の洗浄および食品の取り扱いに関する適正規範を厳守すべきである。

（食品安全情報（微生物）No.15 / 2016 (2016.07.20)、No.14 / 2016 (2016.07.06) Hawaii State DOH 記事参照）

● 欧州委員会健康・消費者保護総局（EC DG-SANCO: Directorate-General for Health and Consumers）

http://ec.europa.eu/dgs/health_consumer/index_en.htm

食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/index_en.htm

RASFF Portal Database

http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/index.cfm?event=notificationsList>

2016年7月11日～2016年7月22日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

チェコ共和国産家禽肉ローフのサルモネラ (*S. Enteritidis*、25g 検体陽性)、イタリア産冷凍チキンバーガーのサルモネラ (*S. Infantis*、25g 検体陽性)、ドイツ産スライスハムのリステリア (*L. monocytogenes*、<10 CFU/g)、ドイツ産犬用餌のサルモネラ (*S. Livingstone*) と腸内細菌 (17,000 CFU/g)、ベルギー産パテのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性)、チェコ共和国産犬用餌のサルモネラ (*S. Derby*、25g 検体陽性)、フランス産チーズのサルモネラ (*S. Dublin*、25g 検体陽性)、インド産冷凍レッドスナッパー (フエダイ属の魚、オランダ経由) によるシガテラ中毒の疑い、原産国不明の生鮮マグロ刺身によるヒスタミン中毒の疑い、ポーランド産犬用餌のサルモネラ (*S. Derby*、25g 検体陽性)、フランス産冷蔵家禽肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*、25g 検体陽性)、ベルギー産冷蔵家禽肉製品のサルモネラ (25g 検体陽性) など。

注意喚起情報 (Information for Attention)

ポーランド産スモークサーモンのリステリア (*L. monocytogenes*、160 CFU/g)、フランス産活イガイの大腸菌、スペイン産解凍マグロロインによる食中毒の疑い、デンマーク産活ムラサキイガイのサルモネラ (*S. Typhimurium*、25g 検体陽性)、ベトナム産乾燥スライスマッシュルーム (Mu-Err) の毒素原性セレウス菌 (6.0x10E5 CFU/g) とサルモネラ (25g 検体陽性) など。

フォローアップ喚起情報 (Information for follow-up)

ロシア産冷凍タイセイヨウタラ (*Gadus morhua*、エストニア経由) のアニサキス、オランダ産猫用餌 (snack sticks) のダニ、イタリア産グルテンフリー・コーンクスクスのカビ、フランス産魚粉のサルモネラ (25g 検体陽性)、スペイン産低灰分家禽肉ミールのサルモネラ (*S. Infantis*、25g 検体陽性) など。

通関拒否通知 (Border Rejection)

ベトナム産寿司用冷凍エビのコレラ菌、モーリタニア産魚粉のサルモネラ (25g 検体陽性)、インド産 betel leaf のサルモネラ (25g 検体 2/5 陽性) など。

- 欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu>

欧州統一の食品分類・記述システム (FoodEx2) の 2015 年次改訂

FoodEx2 annual maintenance 2015

1 July 2016

http://www.efsa.europa.eu/sites/default/files/scientific_output/files/main_documents/1049e.pdf (技術報告書 PDF)

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/1049e>

食品安全関連の様々な分野において多様な情報源にアクセスする際の共通の手段を提供するには、食品を分類し記述する標準化されたシステムが極めて重要である。このニーズに応えるため、2011年、欧州食品安全機関 (EFSA) は欧州統一の食品分類・記述システム (FoodEx2) の第1版 (Revision 1) を発表した。その後、大幅な更新が行われ、2015年に第2版 (Revision 2) が発表された。第2版では大規模な改訂の必要性はなくなっているが、食品市場の革新や利用者の使用経験の蓄積により、システムは継続的な更新の必要性がある。

2015年中に利用者や関係者から寄せられた提案や要望を評価し、それらを本システムに反映させるため、様々な分野で経験を積んだEFSA職員からなるFoodEx2維持管理グループが設置された。

今回の、用語およびシステムの一部変更は以下の通りである。様々な階層 (ヒエラルヒー) および切り口に新規の用語 271 語が追加された。既存のいくつかの用語については、名称の変更または同義語の追加によって適用範囲の具体化または拡大が行われた。重複のため 3 語が削除され、システムの論理との齟齬により 9 語の使用が中止された。一部の用語については適用 (使用) される階層および (または) 切り口が拡大され、また、用語間のより適切な上下関係が発見されたことから、階層構造における位置が変更された用語もいくつかあった。また、茶およびハーブ/果実浸出液に関するセクションの構成および内容が、EC (欧州委員会) 規則 No 396/2005、および、THIE (茶およびハーブ浸出液欧州連盟) による茶 (*Camellia sinensis*) に関するガイドライン概説 (THIE Compendium of Guidelines for Tea (*Camellia sinensis*)) に沿うように改訂された。

(食品安全情報 (微生物) No.10 / 2015 (2015.05.13) EFSA 記事参照)

-
- イングランド公衆衛生局 (UK PHE: Public Health England, UK)

<https://www.gov.uk/government/organisations/public-health-england>

大腸菌 O157 アウトブレイクの調査 (2016 年 7 月 14、21 日付更新情報)

Update as *E. coli* O157 investigation continues

14 & 21 July 2016

<https://www.gov.uk/government/news/update-as-e-coli-o157-investigation-continues>

7 月 14 日付

イングランド公衆衛生局 (UK PHE) は、葉物野菜ミックスサラダの喫食に関連している可能性がある大腸菌 O157 アウトブレイクの調査を続けている。

前回の更新情報 (2016 年 7 月 5 日付) 以降、患者数が増加し、アウトブレイク株感染患者は 7 月 13 日までに計 151 人 (イングランド 144 人、ウェールズ 6 人、スコットランド 1 人) が確認されている。イングランド南西部の患者が特に多い。患者 62 人が入院し、このうち 2 人が死亡した。

7 月 21 日付

2016 年 7 月 21 日現在、PHE は、葉物野菜ミックスサラダの喫食に関連している大腸菌 O157 アウトブレイクの調査を続けている。最新の患者数は本アウトブレイクの沈静化を示唆しているが、アウトブレイク対策チームは引き続き、新たな患者の発生と、感染患者から周囲の人に感染が拡大するリスクを監視している。PHE は、英国食品基準庁 (UK FSA) などの関係機関と協力して感染源の調査を行っている。

アウトブレイク株感染患者は 7 月 21 日までに計 160 人 (イングランド 153 人、ウェールズ 6 人、スコットランド 1 人) が確認されている。

(食品安全情報 (微生物) 本号 UK FSA、No.15 / 2016 (2016.07.20)、No.14 / 2016 (2016.07.06) UK PHE 記事参照)

● 英国食品基準庁 (UK FSA: Food Standards Agency, UK)

<http://www.food.gov.uk/>

大腸菌 O157 アウトブレイクの調査を継続中

E. coli O157 outbreak investigations ongoing

14 July 2016

<http://www.food.gov.uk/news-updates/news/2016/15311/e-coli-o157-outbreak-investigati>

[ons-ongoing](#)

英国食品基準庁（UK FSA）は、イングランド公衆衛生局（UK PHE）および各地の自治体当局と緊密に協力して大腸菌 O157 アウトブレイクの調査を継続している。本アウトブレイクは、葉物野菜ミックスサラダ（ルッコラを含む）の喫食との関連が示唆されているが、現時点では具体的な原因食品は特定されていない。

FSA は、予防策として、食品と手指の衛生管理を適切に行う重要性について消費者に注意を再喚起している。サラダなどの生で喫食する野菜はすべて、「そのまま喫食可能（ready to eat）」という表示がない限り丁寧に洗浄すべきである。調査は継続中である。

（食品安全情報（微生物）本号、No.15 / 2016 (2016.07.20)、No.14 / 2016 (2016.07.06) UK PHE 記事参照）

● オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）

<http://www.rivm.nl/>

最後の手段として用いられる抗生物質への細菌の耐性率がわずかに上昇

Bacteria slightly more often resistant to last resort antibiotics

2016-07-05

http://www.rivm.nl/en/Documents_and_publications/Common_and_Present/Newsmessages/2016/Bacteria_slightly_more_often_resistant_to_last_resort_antibiotics

抗菌剤耐性は世界的な問題である。オランダでは、ヒトの感染症の原因となり得るいくつかの細菌において、最後の手段として用いられる抗生物質に対する耐性率が以前より上昇している。もしこのような状況が続くと、結局、治療の選択肢がますます狭められることになる。医療の現場での抗生物質の使用量も徐々に増えている。以上が NethMap/MARAN 2016 年次報告書の内容の一部である。

耐性菌の伝播の予防

抗菌剤耐性の拡散を食い止めるために、抗生物質は個々の患者および感染の状況に適合して使用すべきである。また、耐性菌を迅速に特定すること、および、耐性を監視するために適切な検査を確実に実施することが重要である。これらに加え、医療関係者が衛生管理および感染防止策を確実に注意深く実施することも重要である。これによって感染自体を阻止することができ、抗生物質治療の必要性や耐性菌の拡散リスクが低減される。これらの対策の結果、ここ数年、病院内のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の菌数は低レベルに抑えられている。これらの院内感染細菌は主に手指の皮膚と皮膚との直接接触

を介して伝播し、多くの種類の抗生物質に耐性を示す。

抗生物質の使用量

オランダの一般診療医（General Practitioner）が処方した抗生物質の総量は、2015 年は 2014 年に比べ約 1%の増加となった。また、オランダの病院での 2014 年の総使用量は、2013 年より 4~5%増加した。

最後の手段とされる抗生物質

抗菌剤耐性率は、ここ数年ほぼ一定レベルを保っている。しかし 2015 年は、いわゆる最後の手段とされる抗生物質（カルバペネム）に耐性を示す *Klebsiella* などの細菌の検出率が少し上昇した。この上昇に最も大きく寄与したのは、介護施設で発生した 1 件のアウトブレイクであった。カルバペネム耐性の *Klebsiella* は健康な人にとって問題とはならないが、被害を受けやすい人はこの菌に感染して発症する可能性がある。

動物への抗生物質の使用量

動物への抗生物質の使用量は、過去数年間にわたり大幅に減少した後に、2015 年はほとんど変化していない。しかし、動物からの耐性菌の検出率は低下した。

NethMap/MARAN 年次報告書

NethMap/MARAN 年次報告書には、ヒト・動物における抗生物質の使用量および抗菌剤耐性に関する情報が収載されている。この報告書は、オランダ抗生物質政策作業部会（SWAB）、オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）の感染症管理センター（CIb）、ワグeningen大学中央獣医学研究所（CVI）、オランダ食品消費者製品安全庁（NVWA）、およびオランダ動物用医薬品庁（SDa）により編纂されている。

（NethMap/MARAN 2016 年次報告書 PDF）

NethMap 2016: Consumption of antimicrobial agents and antimicrobial resistance among medically important bacteria in the Netherlands / MARAN 2016: Monitoring of antimicrobial resistance and antibiotic usage in animals in the Netherlands in 2015
2016-06-30

<http://www.rivm.nl/dsresource?objectid=rivmp:318786&type=org&disposition=inline&nc=1>

http://www.rivm.nl/en/Documents_and_publications/Scientific/Reports/2016/juni/NethMap_2016_Consumption_of_antimicrobial_agents_and_antimicrobial_resistance_among_medically_important_bacteria_in_the_Netherlands_MARAN_2016_Monitoring_of_antimicrobial_resistance_and_antibiotic_usage_in_animals_in_the_Netherlands_in

● ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

コレラ、下痢、赤痢最新情報

Cholera, diarrhea & dysentery update 2016 (23)

25 July 2016

コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
エクアドル、ハイチ、ドミニカ共和国の3カ国	7/21		2016/1/1～7/8	計 22,556	
ドミニカ共和国			2016/1/1 ～ 6/24	(疑い患者)894	17
			2015年	(死亡者含む)546	15
			2014年	(死亡者含む)603	11
エクアドル			2016/1/1～7/8	1	
ハイチ			2016/1/1～7/8	(疑い患者)21,661	200

2015年の米州各国のコレラ患者数および死亡者数

	患者数	死亡者数
カナダ	3	0
キューバ	65	0
ドミニカ共和国	546	15
ハイチ	36,644	321
メキシコ	1	0
アメリカ合衆国	4	0

キューバ、ドミニカ共和国およびハイチのコレラ患者数と死亡者数、2010～2016年

年	キューバ		ドミニカ共和国		ハイチ	
	患者数	死亡者数	患者数	死亡者数	患者数	死亡者数
2010	0	0	191	0	179,379	3,990
2011	0	0	20,851	336	340,311	2,869
2012	417	3	7,919	68	112,076	894
2013	181	0	1,954	42	58,809	593
2014	76	0	603	11	27,753	296
2015	65	0	546	15	36,644	321
2016	0	0	894*	17*	21,661**	200**

*2016/1/1～6/24

**2016/1/1～7/8

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室